

# ぼいす52



1. 「ジュルナル・デ・ダム・エ・デ・モード 1912-1914」 No.45 (C. マルタン)

2. 「ギャルリー・デ・モード」 ル・クレール

## ファッションプレートが 映し出す近代 美術と技術の交差点



3. 「飛鳥園遊覧之図」 楊洲周延

春期企画展  
観覧無料

会期：令和6年3月20日(水・祝)～5月12日(日)

開館時間：午前10時～午後5時

休館日：毎週月曜日

会場：北区飛鳥山博物館 特別展示室・ホワイエ

## 春の 催事情報

## 春期企画展

### 「ファッションプレートが映し出す近代」

#### 美術と技術の交差点

18世紀末のヨーロッパでは、細密な技術で美しい版画作品が生み出されました。中でも、ファッションプレートと呼ばれた、当時のトレンドや未来の流行を予測した版画作品の数々は、現在のファッション雑誌に匹敵する情報として、当時のモードを現在に伝えます。

遠く欧米で作られたファッションプレートは、明治時代を迎え、外国の文物を受容しはじめた日本にも伝えられ、浮世絵や大正時代以降の様々なもののデザインに影響を与えたと言われています。

この展覧会では、北区出身のコレクターで共立女子大学名誉教授の伊藤紀之氏が収集したコレクションを特別に公開します。



*Robe d'intérieur en soie brochée ouverte sur un dessin de ligne*

「ジュルナル・デ・ダーム・エ・デ・モード 1912-1914」 No.61 (G. パルピエ) 所蔵：伊藤紀之氏

#### 【関連イベント】

展覧会担当学芸員が解説します。

①企画展示解説会（全回同内容です。）

日時：4月13日（土）第1回…午前11時～正午／第2回…午後2時～3時

会場：特別展示室

定員：各回20名（先着）

申込：当日直接会場へ※各回開始30分前から整理券配布

②春期企画展関連講座「20世紀のファッションプレートと日本」

日時：4月27日（土）午後1時30分～3時

会場：講堂

定員：60名（抽選）

費用：100円（資料代）

申込：往復はがきまたは電子申請フォームから

4月11日（木）午後4時（必着）まで

詳細は北区飛鳥山博物館HPをご覧ください。

# Voice

## 「埋蔵文化財の保護に関する業務」

北区飛鳥山博物館では、博物館運営に加え埋蔵文化財保護の業務も行なっています。埋蔵文化財とは、文化財保護法において「地下に埋蔵されている文化財」と規定され、埋蔵文化財を包蔵する土地を埋蔵文化財包蔵地と呼びます（一般的には「遺跡」と呼称されます）。埋蔵文化財包蔵地は新たに発見されると「周知の埋蔵文化財包蔵地」として遺跡地図に登載され、その範囲内で開発工事等を行なう場合には文化財保護法に基づく届出の提出が義務づけられます。

令和6年(2024)3月現在、北区では51ヶ所の遺跡が「周知の埋蔵文化財包蔵地」として遺跡地図に登載されています。つまり、これらの遺跡内で開発工事等を実施する場合は届出の提出が必要となり、その届出への対応が埋蔵文化財保護業務の一つになります。

博物館で展示される考古資料が遺跡から出土したものであることを考えると、この届出への対応は埋蔵文化財保護のための重要な仕事の一つであると言えるでしょう。（高坂）



## 「ゆく千川上水の流れは 絶えずして、」

山口 隆太郎（当館学芸員）

「ゆく河の流れは絶えずして、しかももとの水にあらず」ご存じのとおり、鴨長明の方丈記の冒頭部分です。河の流れのように人も家並も時と共に移ろい変わり、はかない泡のようだ」と記しています。

ところで、北区を流れる「千川上水(用水)」は人や町の移り変わりと共に利用されてきた上水でした。

千川上水は、元禄9年(1696)に徳川綱吉の命を受けて開削されました。玉川上水から分水され、本郷、湯島、浅草へと通水しています。周辺の農村の要望で農業用水としても利用され、上水としての使用をやめた後も農業用水としての利用は続きました。北区域でも千川上水は滝野川村などの農業用水として利用されています。この滝野川村の千川上水の利用が、江戸時代末期に大きくクローズアップされることとなりました。欧米からの外圧が強まり、幕府は軍備増強のために、大量の大砲製造を行う必要に迫られます。江戸近郊に恒久的な製造所を設置する計画が起こり、滝野川村が候補地となりました。元治元年(1864)に小栗上野介達が提出した反射炉錐台建設の上申書に「同村耕地堀割千川の水引入れ、水車仕掛けに致し候えば、便宜の御場所と相成るべき」とあり、千川上水の活用が選定の大きな理由であったことがわかります。大砲製造所の場所は現在の醸造試験所跡地公園の一帯で、敷地内に上水を引き込み大砲製造に利用したのです。千川上水を拡張する工事が行われ、開削された上水の管理は村が行うこととされましたが、補償を受けて田畑を手放す人、水車営業をあきらめる人もいました。

時代は程なく明治維新を迎えます。滝野川大砲製造所の役割は終わりましたが、開削された千川上水は北区域の近代産業に大きな貢献をしていくこととなります。大砲製造所の跡地で鹿島万平が日本初の民間機械綿紡績工場となる鹿島紡績を操業します。千川上水を利用した水車の回転力で機械を動かし、水車を回した後の水は、低地部の田畑の灌漑用水として使われました。明治8年(1875)には渋沢栄一が起業した製紙会社の工場も千川上水の水を工業用水として利用しています。明治9年(1876)からは、印刷局抄紙部も千川上水を工場の機械を動かすために使いました。大砲製造に使われた千川上水は、江戸近郊農村であった北区域に近代的な工場が立地することを促したのです。

現在、区内の千川上水は暗渠化され直接目にすることはできませんが、滝野川7丁目の都バスの「堀割」停留所近くには「千川上水分配堰碑」が残されています。明治15年(1882)に開業した千川水道会社と印刷局抄紙部、用水組合の利用水量を明記した石碑で、付近には「千川上水」の文字を図案化したマンホールも残り、千川上水が利用されてきた歴史を静かに伝えています。

江戸から令和へと、人や町の移り変わりとともに千川上水は流れ続けたのです。



▲千川上水分配堰碑

## イベント・レポート

# 秋期企画展関連イベント

昨秋開催の企画展示「北区貝塚物語ーとある少年が見た、おどろきの縄文ワールドー」（10月24日～12月10日）は、中里貝塚や栄町貝塚といった区内の貝塚からわかる縄文人の暮らしを、ひょんなことで縄文時代にタイムスリップした少年タロウの視点をもとに紹介したものです。展示解説パネルにマンガを使うという異色の展示でしたが、おかげさまをもちまして観覧者数はおどろきの9,926名。ご来場いただきました皆さま、まことにありがとうございました。

本展開催中には、展示解説会や特別講演会、野外見学会のほかに、当館常設展示との連動企画「あのクルミはどこにある？」も開催。「北区貝塚物語」は、タロウが常設展示を見学中に、中里貝塚貝層剥ぎ取り標本内にクルミの殻を見つけたことに端を発します。本企画はこの物語の始まり



クルミの殻を探す参加者

を見学者自身に追体験してもらおうというもの。見事、標本中からクルミの殻を見つけ出せた人にはオリジナルのポストカードをプレゼントするというおまけ付き。

長大な標本の中から、小さな殻を見つけるのは至難の業？とも思われましたが、多くの方にお楽しみいただけただようで、展示アンケートには、本企画への感想も多く寄せられていました。当館ではこれからも、展示関連企画を開催していく予定です。今後のイベントもどうぞお楽しみに（安武）。

## イベント・レポート

2023年は北区飛鳥山博物館が開館して25周年にあたります。そこで、様々な周年事業を行いました。スポット展示「ASUKAYAMA セレクション25」とパネル展示「おかげさまで25周年 北区飛鳥山博物館が歩んできた道、歩む道」に関しては、前号の「ぼいす51号」に掲載されているので、今回は「北区再発見！学芸員リレー講座」のレポートです。

この講座は開館以来様々な新発見、新知見を得られた北区の歴史を10名の学芸員がそれぞれ時代を担当し、リレー方式で行った連続講座です。25周年ということで、学芸員総当たりで行いました。講座は表のとおり前期5回、後期5回に分けて行いました。各講座のアンケートをみると、各回とも「大変良かった」「よかった」と回答の方が80～90%あり

ました。多くの方に満足頂いた様でほっとしています。自由意見にも「5回リレー講座とてもよかったです。自由意見にも「5回リレー講座とてもよかったです。また、テーマを変えて企画してください。」などの声がありました。我々としては長期間の連続講座はもしかしたら応募者が少ないかもしれないとの思いもありましたが、ふたをあけて見ればその連続がよかったとのことでした。今回は25周年という節目であったのでこのような講座を企画しましたが、これからもテーマを絞って複数人で連続講座を組むということも考えても良いかなという感触を得ました。（鈴木）

開館25周年事業



### 北区再発見！学芸員リレー講座

前 期		担当学芸員
第1弾	北区の地形と旧石器・縄文時代	鈴木 直人
第2弾	弥生時代の北区	牛山 英昭
第3弾	古墳時代の北区	安武由利子
第4弾	飛鳥・奈良・平安時代の北区	高坂 勇佑
第5弾	鎌倉～戦国時代の北区	谷口 とし
後 期		担当学芸員
第6弾	江戸時代の北区	久保瑩企美子
第7弾	明治時代の北区	田中 葉子
第8弾	大正・昭和前期の北区	佐々木 優
第9弾	大正時代の北区ー民俗編ー	工藤 晴佳
第10弾	昭和時代の北区ー戦後編ー	山口隆太郎

## 役に立つかはわからない！北区飛鳥山博物館用語集

北区飛鳥山博物館は、今年で開館して26年目に突入します。その歴史の中で、一般的に使用されている言葉でも、北区飛鳥山博物館独自の意味を含んだ言葉、博物館ならではの使い方が日々生み出されています。役に立つかはわからない！けど、ちょっと面白い北区飛鳥山博物館用語を少しずつご紹介します。今回は特別に「あ・す・か・や・ま」で始まる5つです！

### 【アクセス】

①ある場所に接近すること。また、ある場所への交通の便。  
②当館へのアクセスで、代表的な最寄駅はJR王子駅。駅には、北口、中央口、南口の三つの改札口があり、このうち当館へ最も近いのは南口である。当館職員も多くは、南口を利用する。

しかし、南口からのルートには一つ難点がある。改札を出てから飛鳥山公園に辿り着くまでに、計百段余りの階段を上らなければならない。特にJRの線路を渡る跨線橋の階段は踊り場がなく、途中息をつく暇も与えてくれない。それでも、私たち職員は「そこに職場があるから」毎朝、飛鳥山登山に挑むのである。(牛山)

### 【水平器】

①水準器に同じ。ある面が水平か否かを

検する機器。

②博物館の展示作業では、主にパネルや額を吊り下げる際に使用する展示七つ道具の一つ。ただし、パネルの出力紙自体が額に入れたときに傾いていたり、周辺のケースや資料との兼ね合いで完全に水平だとかえってパネルが曲がって見えることもある。そのため、最終的には「学芸員の目」で判断する。ちなみに、学芸員は「飲食店などで傾いている額を見ると落ち着かない」という病にもれなく罹患している。学芸員の職業病の一つでもある。(工藤)

### 【学芸員】

①収集保管・調査研究・展示・教育普及を中心として行う博物館の専門職員。  
②前項以外にも広報活動としてSNSでの館活動などの発信や、ミュージアムグッズの開発なども行う。  
③博物館活動を中心に担う学芸員と、文化財保護を中心に担う学芸員とがいる。  
④学芸戦隊キュレイターの別称をもち、日々北区の歴史や文化を解明するため戦っている。(鈴木)

### 【野外講座】

①博物館における事業のひとつ。まち歩き等野外で行われる講座↓座学講座。

②北区飛鳥山博物館では、座学講座のほかにも半期で四〜五回程、野外を実際に歩く講座を行っている。稀に長距離のコースを設定する学芸員もいるが、多くの場合、自身の体力を過信している。実地踏査で泣きを見てコースの調整をすることもしばしばあるが、話したいことが多く、結局は削れないまま当日を迎える事が多い。説明をしながら学芸員が息を弾ませるような場面があってもそっと見守っていただきたい。(佐々木)

### 【勾玉】

①古代日本における装身具の一つ。翡翠、瑪瑙、滑石製等がある。

②現代の人気アイテムの一つ。チャームとして使用されることも多い。「夏休み勾玉づくり教室」は古墳時代の方法で勾玉作りを行う当館オリジナルの講座。材料として配布される青田石は篆刻の印材として流通するろう石の一種で、片側のみられる凸凹は、学芸員がこれらを手作業で半裁した際のノコギリ痕である。仕入れた印材の品質によっては、1開催日分の半裁作業に丸一日を要するときもある。搬入口で裁断作業に勤しむ学芸員の姿は夏の風物詩となっている。(安武)

## 写真に見るあの日・あの時

90年前の赤羽駅前

画面の右側、瓦屋根の上に小さな塔屋を載せた木造の建物は昭和9年(1934)頃の赤羽駅です。明治18年(1885)の開業時、赤羽駅は現在地よりやや北寄りに位置していましたが、昭和3年(1928)には電化工事にともなって駅舎が現在地に移転・新設されました。移転後の赤羽駅には当時の東北本線・京浜線(赤羽～桜木町)・山手線(赤羽～品川)のホームが設置され、東口に加えて西口も設けられました。

写真は新設された赤羽駅の東口側をとらえています。日差しの強い季節らしく駅舎の中は陰になっていますが、その正面は広く開放され、軒下には利用客の姿も見られます。広場の右側には乗合バスが3台も並び、当時から赤羽駅がバス発着の拠点となっていたことが分かります。乗合バスの背後に目を向けてみると、東京日日新聞(現在の毎日新聞)の看板がひととき目立つ建物があります。実は、この写真を撮影したのは東京日日新聞の赤羽出張所と思われ、この写真のほかに同建物の前で撮られた社員の集合写真も確認されています。

残念ながら、この駅舎は昭和20年(1945)4月13日の空襲で焼失してしまいました。現在ではホーム4面を抱える駅に拡張され、赤羽駅は今も東京北部の玄関口として賑わいをみせています。(久保瑩)



野口貞之氏 画像提供

## モノの記憶

看板(東京醤油醸造組合)

私たちの食事の中で欠かせない調味料の1つが醤油。その醤油が北区で製造されていたことをご存知でしょうか。

本資料は、東京醤油醸造組合の組合員であることを示す看板です。この看板は、かつて北区豊島にあった石井醤油醸造場で掛けられました。当館では同様の資料がもう1点収蔵されています。

『北区史 資料編 現代1』に所収された「博覧会出品醤油解説下書」によると、石井醤油醸造場の創業は天明年間(1781～1789)です。千葉県野田(現、千葉県野田市)で醤油製法を学び、北区豊島で製造を開始、文政3年(1820)3月にはさらに事業を拡大しました。製造された醤油は「玉石印醤油」と呼ばれ、第五回内国勸業博覧会では二等賞を受賞するなど、多数の賞を得ています。残念ながら、関東大震災で醤油そのものを始め、醤油詰場の倒壊や器具の破損などの大きな打撃を受け、石井醤油醸造場は廃業となりました。

本資料の看板が店のどこに掛かっていたのかは定かではありません。しかし通常、組合員と証明する看板は、その証を目立たせるべく、人の目につく場所にあったものです。入口付近など、店の目立つ場所にあったのではないのでしょうか。

北区豊島を代表する地場産業の1つであった石井醤油醸造場の玉石印醤油。和食好きの私としては、ぜひとも味わってみたかったです。(谷口)

看板(東京醤油醸造組合)



「赤羽の祖母の家では、毎年7月のお盆に迎え火と送り火をおこなっていた。最年少の者が庭で提灯を持って、ぴょんぴょんぴょんと3回左右に跳ねて3回目で先祖が肩に乗るため、そのまま家の中に連れて入った。迎え火の時は、3回目で家に向かって跳んで、送り火の時は3回目を外に向かって跳ぶように決まっていた。家の最年少のものが担当するため、高校生の頃までやらされた。」

迎え火と送り火は、盆行事の一つであり、文字通り、盆に返ってくる先祖を迎える / 送るものです。かつては、おおよそ7月12日に墓地の掃除をし、13日の午前中に盆棚を作ったという事例が区内各地域で見られました。そして、13日の夕方に提灯を持って墓地まで行き、お参りをした後、提灯に火をつけて先祖を家に連れて帰ります。冒頭の話では、墓地までは行かず、家の庭で提灯を持って3回ジャンプをして先祖を迎え、肩に乗せて家の中に連れて入ったといえます。近隣の家もそのような方法で先祖を迎えていたようです。



迎え火をまたぐ風習は全国的によく見られますが、迎え火の上を3回またぐ行為は、区内だと田端地区での事例が報告されています。提灯で墓地から先祖を迎えた後、自宅前でその提灯の火によってホウロクの上でオガラを焚き、その上を家族全員が3回またぐことで家族の無病息災を願ったといわれています。(工藤)

## 博物館インフォメーション

### ◆北区飛鳥山博物館公式SNSのご案内

当館公式 SNS (X、Instagram、Facebook) では、当館の最新情報や学芸員のつぶやき、飛鳥山公園の様子、文化財・資料情報などみなさまが当館に親しみを持ち、楽しんでいただける情報をいち早くお届けしています。ぜひフォローをお願いします！



公式 X  
(旧 Twitter)



公式 Instagram



公式 Facebook

### ◆北区の昔を伝える資料や写真を探しています！

当館では、北区内で使われていた生活用具や、北区内を写した懐かしい写真など、昔の暮らしがわかる資料を探しています。「こんなものでいいのかしら？」という方も、ぜひ当館までご一報ください (TEL:03-3916-1133)。皆さまからのご連絡をお待ちしております。

一重八重  
関山御衣黄  
福祿寿

ヒトエヤエカンザンギョイ  
コウフクロクジュ。  
なんだか呪文のようですが、春の飛鳥山を彩る桜を並べてみました。

3月下旬、一重桜の染井吉野が開花すると、飛鳥山公園は一気に花見会場に変身。当館職員には、一年で一番たばたする季節の到来です。開花状況の確認電話、落とし物の問い合わせ、涙をこらえた迷子さん…。ですので、じっくりお花見気分になれるのは、4月中旬の八重桜から。関山は紅色が濃く、何枚もの花びらが重なってポリューミーな八重桜。御衣黄は黄緑色の花びらが珍しい！福祿寿は大輪の淡いピンクがなんと豪華やかです。八重桜の時期には公園内も落ち着き、職員は通勤途中の朝晩毎日がお花見です。

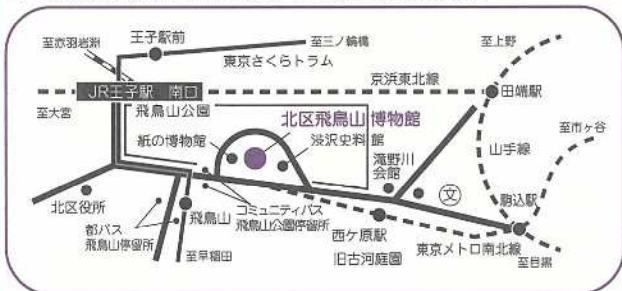
ただ一つ困ったことが。残業して少々帰りが遅くなると、電灯に照らされた関山が桜餅にそっくり。長命寺の桜餅ではなく、ぷっくり丸い道明寺粉の方。ああ、桜餅が咲いている。ぐう。やっぱり花より団子、なのかしら。(田中)

利用のご案内

- 【開館時間】 午前10時～午後5時  
※観覧券の発行は午後4時30分まで
- 【休館日】 毎週月曜日(月曜日が国民の祝日・休日にあたる場合は開館し、直後の平日に振替休館) 年末年始(12月28日～1月4日)  
※このほかに臨時休館日があります。

【常設展示観覧料】	個人	団体	三館共通券
一般	300円	240円	800円
【常設展示室観覧料】	高齢者(65歳以上)	150円★	
・小学生未満は無料	小・中・高	100円	80円
・団体扱いは20名以上			320円

・障害者手帳をご提示いただいた場合は、当館の一般券が半額となります。(障害のある方一人につき、介助者一人まで観覧料が免除となります。)  
・三館共通券は当館のほか、紙の博物館・渋沢史料館をご覧いただけます。  
★年齢が確認できる証明書をご提示ください。



- 交通のご案内
- ・JR京東北線 王子駅南口より徒歩5分
  - ・東京メトロ南北線 西ヶ原駅より徒歩7分
  - ・東京さくらトラム(都電荒川線) 飛鳥山停留場より徒歩4分
  - ・都バス(草64、王40系統) 飛鳥山停留所より徒歩5分
  - ・Kバス(北区コミュニティバス) 飛鳥山公園停留所より徒歩3分
- ※飛鳥山公園に隣接して有料駐車場がございます。

編集後記

25周年イヤーが終わり、北区飛鳥山博物館は26年目の春を迎えます。50周年目の北区飛鳥山博物館は、皆さんにとってどんな博物館になっているのでしょうか?そんなことに思いをはせつつ、目の前の仕事に追われる編集なのであった。。。(工藤)

展示・イベント

- ◆ 春期企画展  
「ファッションプレートが映し出す近代—技術と美術の交差点—」  
..... (3/20～5/12)
- ・ 春期企画展展示解説 ..... (4/13)
- ・ 春期企画展関連講座 ..... (4/27)
- ◆ スポット展示  
「ハジキだヨ!全員集合」 ..... (5/28～6/23)
- ◆ 夏休みわくわくミュージアム★2024 ..... (7/20～8/25)
- ◆ 文化財紹介展示  
「荒川放水路100年記念」 ..... (7/23～9/1)
- ◆ 特別展覧会「第23回奥山峰石と北区の工芸作家展」  
..... (9/中旬～10/中旬)

講座

- ◆ 大人の浮世絵鑑賞講座 ..... (4/28)
- ◆ こいのぼりをつくろう! ..... (5/3)
- ◆ 北区文化財めぐり—王子編— ..... (5/11)
- ◆ 北区遺跡学講座 2024 ..... (5/18)
- ◆ 双六で知る江戸・東京名所 ..... (5/25)
- ◆ 学び舎に響く歌声「北区の校歌—中学校編—」 ..... (5/26)
- ◆ 親子で体験! 王子田楽①② ..... (6/1・6/8)
- ◆ 北区ジュニア考古学クラブ春の活動①② ..... (6/2・6/16)
- ◆ 考古学講座〈初級編〉  
考古学をはじめよう①②③ ..... (6/15・6/22・6/29)
- ◆ 開催直前! お富士さん ..... (6/23)
- ◆ 若き熊楠が訪れた北区の遺跡 ..... (7/13)
- ◆ 開催直前! 王子田楽 ..... (7/27)
- ◆ 新聞から読む考古学  
—2024年上半期を振り返る— ..... (7/28)
- ◆ 北区ジュニア考古学クラブ夏の活動 ..... (8/11)
- ◆ 考古学講座中級編「考古学を学ぶ—丸木舟の話—」 ..... (8/25)
- ◆ 考古学講座中級編  
「考古学を学ぶ—古墳の埋葬施設の話—」 ..... (9/7)

※催し物は仮称のものも含まれます。( ) 内の実施日は予定です。  
詳細は当館発行の催し物案内や北区ニュース、ホームページをご覧ください。

臨時休館のお知らせ

収蔵資料を虫害やカビから守る燻蒸(くんじょう/収蔵庫内の殺虫・殺菌処理)にともない、7月2日(火)～7月5日(金)まで臨時休館とさせていただきます。何卒ご理解のほど、よろしく願いたします。なお、諸事情により休館期間が変更になる場合があります。

北区飛鳥山博物館だより ぽいす52

【発行日】 令和6年3月20日  
【編集・発行】 北区飛鳥山博物館  
〒114-0002  
東京都北区王子1-1-3  
TEL. 03-3916-1133  
【印刷】 文明堂印刷株式会社